個別ゼミ概要（WEB掲示用）

作成日：2024 年 3 月 8 日

授業科目名	如水会寄附講義「如水ゼミ」			
ゼミ名	「航空運輸」			
講師幹事名	折原　範明		大学教員	全学共通教育センター長　南　裕子
学　期	2024 年春夏	**開講時間**	水曜　4～5 時限	

＜過去の受講生の声＞

- 実際に本社や訓練施設を見学させていただき、空港や飛行機で実際に目にしたり体感したりするサービスは JAL の業務のほんの一部分で、その裏には運航を支える社員の方々の日々の業務が積み重ねられ、その結晶が“お客様に充実した空の旅”を提供する、ということなのだと実感しました。同じ大学の先輩方が自分が小さいころからあこがれていた企業で働き、そして活躍されている姿を間近に見てとても感動しました。

- このゼミの第二の目的である、働くということについてじっくりと考えた回だった。私自身は就職活動を通して知見を深めたことやより明確になった将来のビジョンがある中で、改めて原点を見つめ直すような時間だった。生きるためにはお金が必要で、お金を稼ぐために働いて、どんな仕事でも誰かの役に立つことが出来るという前提の中で、あと数十年どうやって仕事と向き合っていくのか。この初心は何年経っても忘れてはいけないものだと感じた。

- 一橋大学出身の方でパイロットの方がいらっしゃることをこの講義を受けるまで知らなかったので、とても驚きました。華やかに見えるパイロットのお仕事は、国内線だと１日３便、国際線だと休みの間に時差の対応をしなければならないなど、かなり体力勝負な側面を強く感じました。体力だけでなく、刻々と変わる空の状況を把握し適切な判断を下すための知識と経験が不可欠であることもわかりました。民間企業が行う営利活動として、安全だけでない点に関しても幅広く考慮すべき点があることが難しい点だなと感じました。

- 航空業界が担う大きな役割の１つとして、要人移動を支える業務について細かいお話を伺えたことがとても楽しかったです。要人の利便性と安全性を担保するために、全国のグラウンドスタッフが力を合わせて目まぐるしく変化する世界情勢に合わせた臨機応変な対応をしていらっしゃるというエピソードが非常に印象的です。
- グラウンドスタッフの方のサービスは、今までなんとなくで受けてきたものがたくさんの気配りと陸と空のスタッフの連携によって支えられていることに驚きました。

- 世界的に脱炭素化が進む中で二酸化炭素排出量が制限され、燃料を大量に燃やす飛行機には風当たりが強い状態が続くように思います。そうした中、すでに空気中にある炭素を再利用して飛行機を飛ばす技術が開発されていると聞き、航空業界でも地球環境を考慮した事業運営が進んでいることに関心が惹かれました。今後、航空業界が地球環境に対してどのようなアプローチを行なっていくのか興味深く思います。